

Planned Happenstance (プランド ハプンスタンス) 随想 [第7話] 高校同期有志の“むげん会”と自然歴史文化の探訪

藤平 正氣 (昭和44年応化卒)

はじめに

2010年秋、幹事のTK君から案内があり、久し振りに高校同期会に参加した。その折、CGさんに声をかけられ、それをKK君に繋いでくれて、“むげん会”の皆さんと今日の有難いご縁が開けたのである。TK→CG→KKの流れに遭遇できた、これは2008年から思索してきた“Planned Happenstance(プランドハプンスタンス)”(以下PHと称す)の事例研究にも繋がり、あらためて感謝している。入会当初、“むげん会”を高校同期有志と“横浜の自然歴史文化を訪ね歩く会”と知人には紹介していた。参加すれば、繋がり広がる、そして新たな出会いと発見がある。主宰するKK君のリーダーシップ、さらにはメンバーのフォロアシップにより、今では芸能へも、また県外や海外へも活動範囲を拡げている。“むげん会”の常時活動メンバーは12人、50周年の記念誌を作り古希を祝った。

発足時の“むげん会”

昨年、KK君からあの時のむげん会誌、2冊を借りて、私の作文2件を約50年振りに読み返してみた。親友のYU君が参加と寄稿を勧誘したのであろうか？あの時、私は、第3号と第4号に寄稿していた。討論会？に2回参加した記憶がある。やはり、あの時は入会しなかったようだ。普通人の私、思い当たる理由はいくつかあるが、話さない方がよい。

あの時は1966年、嗚呼あの時は成長過程の21歳、作文の構想も展開も稚拙であり、なんとか繋いで結言に到る。しかし、“何かをやらなくては！それは足元・直近・火中にしかない！”という気持ちを汲んで、あの21歳を今では70歳が優しく見つめる。普通人の21歳はやはり未熟な21歳、70歳が厳しく見れば歯痒いがそれでも仕方がない。信念や達観を抱いた70歳の役割は、傾聴・受容さらには例示・見守りの領域にある。

“むげん会”との再縁

小学5年生まで讃岐の田舎でのんびりと暮らしていた。ところが一転、小学6年生から高校3年生までは大変、毎年暮らす風景や友達の気性が変化して

いた。小学校3つ、中学校2つ、高校2つの転校を余儀なくされた。戦後の混乱を脱した時期、父親がまたも全国区の仕事に復帰したからである。居心地や働き甲斐より生き抜くため両親も懸命だった。

全国各地を転居し、両親が横浜市を安住の地にしたのは、高校1年生の秋であった。大学卒業後、私も国内外各地で就業してきた。時は流れて2006年、これからの介護や老後に対処するため、さらに定年退職も近づき終の棲家を意識し、また横浜市に戻ってきた。

海と船と港に縁があり、“よこはま”は“むげん会”に繋がるPHのキーワードである。

横浜の自然歴史文化

見渡す限り青山と溪流、横浜市にそんな風景は無くなった。しかし、桜咲く時節には自然探訪したい場所が横浜市にもなんと多いことか！“むげん会”で定番となっている「日本桜名所100選」の三ツ池公園、通称「桜山」の三ツ沢公園、根岸森林公園、本牧山頂公園、三溪園、金沢自然公園、大岡川・柏尾川・帷子川河岸、等を推奨する。

旧東海道を辿る歴史探訪もブラタモリ気分である。興味関心が高いメンバーは違った何かを発見する、そしてその情報に“なるほど”と共感する。川崎宿と砂子の里資料館、鶴見川橋と関門関、生麦事件の碑と参考館、神奈川宿と幕末開港仏閣領事館、保土ヶ谷宿と帷子橋、戸塚宿と街道要衝、等を東海中膝栗毛に思いを馳せながら歩く旅を推奨する。

河口から源流を探訪するのも興味深い。人間生活のご都合に氾濫してきた鶴見川、帷子川、大岡川、柏尾川やいたち川を辿ると、大改造されても自然の痕跡を発見できる。

みなとみらい周辺に見られる横浜の歴史と文化には、幕末開港、関東大震災、連合軍進駐、戦後の経済発展を通して、先人の知恵と努力を見聞できる。“横浜万歳！”である。

横浜風景と年賀状題材

毎年出す年賀状、干支、松戸在住時の名所旧跡や松戸七福神で、あっと言う間に30年が過ぎてしまっ

た。この間せっせと版画を彫り続けたが、題材探しとデザインにはかなり苦勞していた。さらに55歳頃、彫っている時めまいを起こし、その後手書き絵に、そして写真に変えてしまった。歳を経て無理しないやり方にも新たな発見がある。これで満足！

横浜転居を機に2009年から“横浜シリーズ”を始め、一作目は手書き絵、2011年からは“むげん会”で撮りためた写真のお蔭様で、今では題材に困ることが無い。2枚を例示し、一緒に訪ね歩いた“むげん会”のメンバーへのお礼としたい。

大山道歩きと落語“大山詣り”

KK君の先導による県外自然歴史と国外文化芸能への旅、甲斐信濃上州では横浜への、ニューヨークでは日本への、何かどこかで繋がる不思議な発見できた。

芸能分野への活動拡がりとして、直近2年の大イベントは、横浜にぎわい座を借りての“むげん富士見寄席”である。もちろん先導はKK君である。KK君の知友素人芸能集団が高座を張る。落語が主流でプロ並みだ、マジックや音曲も捨て難い。今年も芸能ホールを満席にした。メンバーは催行当日の役割分担によく協力している。

大山を遠望しながら神奈川県の大山道3つ、柏尾通り・青山通り・田村通りをそれぞれ歩いた。一日10～15キロ、2～3日かけて無理をしないで歩いた。路傍の道標、庚申塔・道祖神等の石仏、六地藏や祠が、往時の大山道風景の痕跡を物語る。そして大山寺、阿夫利神社下社から大山山頂に到る。江戸時代から明治時代には、大山詣りがブームになり、浮世絵、すごろく絵や古地図そして歴史書や落語に、参詣と遊興の興奮を感じ取れる。

この体験が“むげん富士見寄席”での落語“大山詣り”に繋がった。

お山や巨石・巨木への自然崇拜、日本各地で感じる畏敬の念は純朴で有難い。

終わりに

直近の5年、社会人6割、家庭人2割、自由人2割の生活が定着し、熟年人生を謳歌している。“むげん会”の活動は、自由人2割の範疇に入る。組織への参加が深まれば役割分担が増える。時には、パソコンでの資料作成や写真整理、そして送信共有するという役割も発生する。気楽な趣味や遊びも主宰すると、現役世代のようなやり方になり、メンバーの参加意識や段階によっては負担となるようだ。

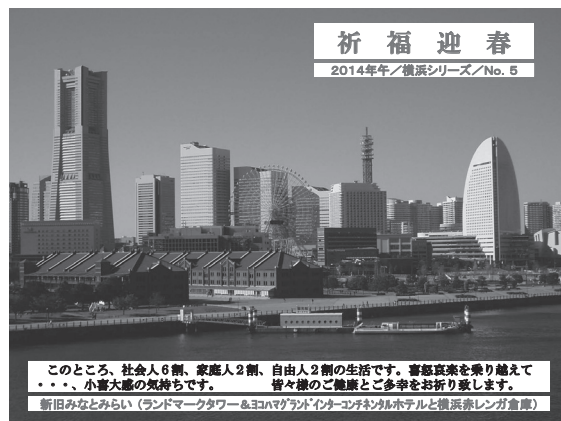
“むげん会”メンバーの今昔、2015年現在と1965

年頃を比較すると、喜怒哀楽の振幅は小さくなった。この熟年までの約50年、“善悪のけじめ”はもとより“他者への思いやり”に係る学習効果が今では十分に発揮されている。これがメンバーに居場所や居心地の良さを提供している。KK君のリーダーシップとボランティア精神の発揮に、メンバーは概ねフォローシップを発揮して応えるが、活動の拡大に復習不足を感じることもある。

(平成27年7月5日 記)

参照図書等

- ① “むげん会” 編『むげん』
(第3号／1966年5月) & (第4号／1966年9月)
- ② “むげん会” 編『むげん・50周年記念』
(第13号／2015年6月)
- ③ 井上光貞監修『図説歴史散歩事典』山川出版社
(第2版／2004年6月)
- ④ 大山阿夫利神社編『相模大山街道』大山阿夫利神社
(初版／1987年3月)
- ⑤ 中平龍二郎著『ホントに歩く大山街道』風人社
(初版／2007年7月)
- ⑥ 宮家準著『霊山と日本人』日本放送出版協会
(初版／2004年2月)



藤井了堅先生の思い出

浦野直人（昭和52年電化卒）

H26年12月に1通の喪中ハガキが届きました。藤井了堅先生の奥様からで、先生が102歳で永眠なされたことの連絡です。「油断してしまった！お会いしたかったのに！」私は焦り意気消沈しつつも、先生との思い出が走馬灯のように蘇りました。

さて、藤井了堅先生と言っても99%の方はご存じないと思い、ご紹介させていただきます。先生は、S51～52年に電気化学科の講師・教授を務められ、国大でのご専門は有機電気化学でした。それ以前は、協和発酵工業で要職（研究所長など）を務めておられたそうです。会社でのご専門は有機合成で、日本で最初にオクタノール製造の工業化に成功したと話しておられました。なお、先生の論文を1件だけ発見しましたので、照会します。

藤井了堅(1950)有機合成化学協会誌,8(5),73-76.です。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/yukigoseikyokaishi1943/8/5/8_5_73/_article/-char/ja/

国大での二年間、先生は卒論生を2名ずつ受け入れました。最終年度の学生は紀山真一郎君と私（浦野）です。私が研究室に入る前に、面談で先生と交わした恥ずべき会話は、今でも鮮明に覚えています。先生「君は有機電気化学の何処に興味を持ったのかね？」

浦野「それが…特に興味があったのではなく、ただ、なんとなく…」

先生「君は卒業して、どの方面に行きたいのかね？」

浦野「就職は考えていません。電気化学があまり好きでないので大学院も無理です。」

今思うと、無茶苦茶な会話が延々と続きました。それでも受け入れてくださったのですが、その時の先

生の気持ちは、当時の私に理解できるはずもありませんでした。

卒論では「芳香族カルボン酸の電解還元」の研究テーマをいただきました。老教授の下でのんびりしようとの、私の目論見は見事に外れました。先生はほぼ1年中、月～土の9時から17時まで、私達の横にピタッと寄り添って研究指導をしてくださいました。先生は教育研究意欲の鬼でした。先生の中から見た私達は信じられないくらいできが悪く、怒りの爆発を抑えるのに苦労している様子が日常茶飯事に伺えましたが、なんとか卒論が完成しました。卒業後、紀山君は保険会社に就職、私は東京水産大学（現・東京海洋大学）の研究生となりました。先生はさぞかし張り合いが無かったと思います。

私は卒業後も先生とご連絡を取らせていただきました。S58年に東京工業大で博士号を得た際には、先生がお祝いの徳利を送っていただきました。S62年の結婚披露宴にもご出席いただきました。H6年に水産大に就職後、入学試験で「芳香族カルボン酸の電解還元」が出題された時に、先生から「とても懐かしいねえ。」というお手紙をいただきました。

その後、歳月が矢のように過ぎて、当時の愚かな若造もすでに老境に入りました。今日ここまで来れたのは、様々な方々との出会いがあったことと感謝しておりますが、中でも藤井了堅先生のご指導を得たことは、私にとって最大の勲章です。40年前の先生の教えは私の身体の隅々まで残っており、そっくりそのまま現代の学生に適用しています。藤井了堅先生、本当にありがとうございました。合掌。

電化 41 年入学クラス会

鈴木恵一郎（昭和 45 年電化卒）

2015年6月27日、電化昭和41年入学（45年卒）のクラス会が横浜中華街千禧楼で行われ、17名が集まった。我々のクラス会は卒業後ほとんど開かれていなかったが、1 昨年の国大化学会総会の後に久しぶりに7名が横浜で集まった。その際、来年からはできるだけ多くの仲間呼びかけてクラス会を開こうということになり、幹事は面倒見のよい長谷川隆君に決まった。昨年はさすがに長谷川君、17名の仲間を集めた。卒業後初めて会う面々も多く、最初はお互いによくわからない顔もあったがすぐに昔に戻り楽しいひと時を過ごした。函館から、また徳島からこのクラス会のために駆けつけてくれた仲間もいた。本年のクラス会は昨年と同数の参加人数であったが、入れ替わりで新しい顔ぶれも加わりそれぞれの近況報告で盛り上がった。来年は入学後ちょうど50周年となるため盛大にやろうという話もまとまった。20名以上の参加となることを期待したい。

